

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (たんぼぼ)		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500629-006ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で地域の繋がり、ボランティアの受け入れが出来ない状態でしたが、外出支援として花見や喫茶店、買い物に出掛けました。お菓子作りや室内でお祭りをを行い、大変喜ばれました。体調を朝夕のバイタルチェック、毎月の体重測定、週1回のドクター回診、訪問看護で、変化を見逃すことなく対応し管理しています。筋力維持の為、いろいろな転倒予防体操を楽しみながら毎日行っています。共同スペースには、季節を感じられるような飾りや貼り絵作りにも取り組んでいます。中庭では季節の花や野菜を育て、収穫した野菜は食事に取り入れて楽しんでいます。生活の家事で洗濯物干しやたたみ、食事の配膳・下膳、テーブル拭き、リネンの交換、食器拭き等出来る事を無理なくお手伝いしていただいて、役割りを持つことや出来る事を行い、メリハリのある生活を送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは中庭のある造りで、採光に優れ、開放的で明るく、木のぬくもりが感じられる空間になっている。また、大きな窓からは自然風景を眺めることができる。ホームでは、法人理念を踏まえ、「情報のパス、観察のラン、連携のスクラム 無事故のトライ」というホーム独自の理念を掲げ、利用者オリエンテッドの視点から、一人ひとりに寄り添った支援に努めている。また、ゆっくりした時間を利用者と共有しながら、観察を深め、利用者それぞれの状況に応じたケアに取り組んでいる。さらに、職員チームで連携し、見守りの姿勢で利用者の潜在能力を引き出し、QOLの向上を目指して取り組んでいる。ホームの強みとして、クリニックを母体とした医療法人・社会福祉法人グループの一員であり、医療機関をはじめ多様な施設との密な連携を可能にしており、サービス提供の大きな支えになっているとの事である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「情報のパス、観察のラン、連携のスクラム 無事故のトライ」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。	法人の理念を踏まえ、ホーム独自の理念を掲げている。理念からは、情報の共有、ポイントを押さえた観察、事故防止への取り組みについて注力していることが読み取れる。法人理念と共に復唱し、カンファレンスやミーティング時はホーム理念に立ち返って、ケア内容について検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内清掃にも参加している。	コロナ禍で、外出制限があったが、散歩や町内清掃時に近隣の人々と挨拶をする等して、交流している。ホームでも地域の回覧板を3ユニットともに回覧するので、地域の情報についても把握できている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で直接会議での話し合いが出来ていないが、入居者様の状況やヒヤリハット報告、日常生活の様子を文章にて伝えている。	コロナ禍のため、委員には書面でホームの活動状況、職員体制等を報告し、返信により意見をいただいている。意見・要望については、取り組み状況等を記載する等して、丁寧に委員全員に報告している。これらの取り組みにより、委員にホームの活動状況等について、より理解を深めていただいている。	会議の構成メンバーは現在、法人施設と市役所、地域包括支援センターが主な参加者である。コロナ禍以前から、地域との付き合いがあり、交流もあるので、民生委員、班長、自治会長、老人クラブ、商店主等、地域の役員その他の様々な立場の方々の会議への参加促進に向けた取り組みに期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。	市との連携については、運営推進会議への参加、外部評価の報告を送付し、意見や助言を受けたり、感染症予防対策等、不明なことがあれば問い合わせをし、情報提供や指導を受ける等、協力関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場カンファレンスの話し合いや申し送り日誌で情報を共有・理解し実践している。玄関の施錠については離設の恐れのある方が居るため、安全のため、施錠させていただいている。	例えば、車椅子で抑制帯が必要になる場合は、家族に説明の上、同意を得て、時間を決めて行っている。拘束することのリスクを考え、行わないケアについて検討したり、研修会を行ったりする等、身体拘束をしないケアの実践に向けた取り組みを行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。	高齢者虐待防止法に関する研修を行い、高齢者虐待の内容について理解を深めるとともに、自己点検シートを定期的の実施している。また、集計結果をカンファレンスで検討し、虐待防止に努めている。日常的なケアの中で、職員相互で注意し合う等の関係づくりができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行う。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会が開かれていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。	日頃から利用者とのコミュニケーションに努め、意向や意見を聞いている。家族の意見、要望等については、玄関に意見箱を設けるとともに、電話や来訪の際に意見を聞き、ホーム内で検討し、運営に反映すべく取り組んでいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。	毎月、開催するカンファレンスや職場会議、個別面談等においても、職員が意見を表明する機会を設けている。また、管理者は、日常的に現場に身を置き、職員に声をかける等して、話しやすい関係づくりに努めている。職員から出された意見、提案については運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。	職員の勤務状況を把握し、有給休暇の積極的な取得や残業の軽減に取り組むとともに、それぞれの家庭の事情も配慮する等、働きやすい職場づくりを行っている。また、予防接種、健康診断等の実施や各種福利厚生も充実している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で法人内外の研修を受けることが出来ていない。	職員個々のスキルや職位等に応じて、必要に応じて研修の参加を促している。期首に目標設定し、期中にフィードバック面談を実施して、評価を行う目標管理制度が導入されており、資格取得のための援助や勤務調整等の配慮もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流する機会がなく、活動出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の好きな事、やりたい事、出来る事を把握し、施設での日々の暮らしで活用出来るように支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと関わる時間を持ち、日常の様子や会話から聞き取り、ご本人様の思いを把握できるように努めている。	利用者に寄り添い、ゆったり関わり合う中で、思いや意向を把握している。思いが表明できない場合には、非言語的コミュニケーションを活用しつつ、しぐさや行動の背景を考えて、思いの把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを実施し、情報共有を行い、面会時や電話で、ご家族様より、意見や要望をいただき計画に反映させている。	様々な機会を捉え、利用者・家族の意見を聞き、それを踏まえて、定期的にユニットカンファレンスを開催し、多職種で連携しつつ、職員チームで介護計画を作成している。計画はモニタリングを行い、6か月ごとに見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどは、個別に毎日記録している。申し送り日誌に記録し、情報共有し、実践している。	電子カルテへの入力に加えて、手書きの日誌を使用し、情報共有している。介護記録には、利用者の状況やエピソード、気づき等を記入し、介護計画の作成に活かしている。日誌で日々のケアを申し送り、ケアの継続性を担保した切れ目ない支援を実践している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねる時は法人内の「支援会議」において状況変化に応じ、必要と思われる支援が受けられるように検討している。	母体法人は医療・福祉の複合的な施設展開をしており、医療・福祉連携の強みを活かしたサービスの提供ができています。また、ホームにおいても、職員数を増やして、各種行事の充実化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過において、定期的なボランティアや法人内の託児所の幼児の受け入れや来訪は出来ていない。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医であり、週1回のドクターの回診がある。ご本人様、ご家族様の希望があれば、他医療機関やかかりつけ医と連携をとっている。	かかりつけ医の選択について、本人、家族が自由に選択できるようにしているが、母体法人の医療機関をかかりつけ医として選択するケースが多いとの事である。週に1度、かかりつけ医の往診があり、また、必要に応じて他科受診にも対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携ができる体制が整っている。	退院時には、協力医療機関内に地域連携室を設け、退院調整を行っている。また、ホームとLANが構築され、速やかな情報共有や受け入れ体制の準備ができる等、濃密な連携関係ができています。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期における対応を、ご家族様に説明している。その時期が来た時には、ご家族様・医師・看護師・介護職員が、話し合いし連携を取り、必要書類を作成し、チームで支援を行っている。	利用時に、重度化した場合や終末期の在り方についてのホームの方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合には、医師から家族へ丁寧な説明を行っている。ホームでの看取りの場合には、利用者・家族の意向に沿って、家族や関係者も含め、多職種で話し合う等、連携を取りながら支援を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して医師への報告や救急車の要請時に、スムーズに行えるように備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っていたが、コロナ禍で、実施出来ていない。	敷地内に同法人の他事業所があり、災害時の食糧や水、薬、オムツ等の必要物品は複数の事業所に分散して備蓄している。災害時の連絡や応援体制を整備するとともに、緊急連絡網等を作成し、掲示している。現在、事業継続計画(BCP)の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の性格や認知症の進行状況を考慮しながら対応している。話の内容に応じて、耳元で本人にのみ聞こえるよう話しかけたり、必要に応じて居室で対応するようにしている。	利用者一人ひとりに合わせて、プライドを傷つけないよう配慮した声かけに心がけている。認知症の周辺症状がある場合でも、不安な気持ちの理解に努め、人生の先輩として利用者の気持ちを大切にしたいケアを心がけている。また、プライバシーを守るため、居室でゆっくり話を伺う等している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を提供する際や活動への参加の可否など自己決定できるよう、強制することがないように配慮している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れ・日課はあるが、日中でもベッドで休むことができるようにする等の配慮をしている。自らの意向を言葉にすることが難しい入居者には表情や顔色を観察しながら対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンのスペースや感染症防止等への観点から一緒に準備することが困難だが、本人の滑稽を考慮して食事提供をしている。	利用者の要望を聞き、寿司の出前を注文したり、利用者と一緒に季節の和菓子の買い物に行き、提供する等、感染予防について対策しながら、食事が楽しみなものになるよう、企画している。また、専門職が食器やスプーンを選定し、利用者自身で安全に食べられる環境を整えている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の把握に努めている。特に水分摂取量が少ない傾向の入居者には飲み物以外にゼリーを提供することで水分摂取量の確保を図っている。DrやSTと連携して食事形態の調整をしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、法人嘱託の口腔外科医と連携して口腔内の異常への早期対応や清潔保持に努めている。	連携している口腔外科医から、口腔ケアについての助言を受けながら、日々のケアを行っている。口腔内に異常がある場合は、早期に発見し、治療につなげている。口腔ケアに関する研修を受け、口腔内の清潔保持の大切さを理解し、口腔ケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。安易に吸収量の多い排泄用品に頼らないようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の能力や意向に応じて入浴形態を検討する等の出来る限りの対応をしている。 ゆず湯など季節感を実感できるよう配慮している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中の活動量が減少しないようにしている。 一部、就寝薬を服薬する入居者がいるものの基本的に良眠できている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な血液検査や日常的な体調確認・状態観察を通して薬調整がされている。	配薬ボックスから薬を出す際、利用者の名前を声に出してダブルチェックする等、服薬までの見守り体制を整えている。服薬後の袋は、最後にチェックをしてから廃棄する等、服薬介助の流れを標準化することで服薬ミスの防止に取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特異なことやバックグラウンドを把握して楽しみにつながるよう配慮・支援している。行事の内容によってはユニットを超えての交流もしている。	利用者の今までの生活歴やホームでの暮らしの中で、一人ひとりのできる力や得意なこと等の把握に努めている。経験や知識を発揮できる場で、洗濯たたみや野菜づくり等、得意分野の役割を担ってもらっている。例えば、手先が器用な利用者と一緒に夏祭りの飾りを作成した際に見られた生き生きとした表情が印象的であったとの事である。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が困難な状況のため、中庭やバルコニーに出て外の空気を吸ったり気分転換できるよう配慮している。	感染防止のため、外出は制限的にならざるを得ない状況にあるが、ドライブを楽しみながら花見をしたり、ホーム周辺の散歩へ行く等、季節を感じるができるよう、できる限り外出支援を行っている。また、気分転換に母体法人グループが運営する喫茶店へ行ったりもしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点から、現在はお預かりの対応をしていない。外出等で必要な場合は、事前にご家族へ連絡して必要分預かっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	LEDを導入したことにより、居室の調光がしやすくなっている。 共用スペースでは花や壁画を飾る等して殺風景にならないようにしている。	リビングは、採光に優れて明るく、木のしつらえのぬくもりが感じられる。また、大きな窓から四季の自然風景を眺めることができる。また、ソファが設置され、中庭を眺める等して、利用者が思い思いに落ち着いて過ごせる空間づくりをしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の相性を考慮して席を設定している。 一人一人の席は設定しているが、席以外の場所でも過ごせるよう対応している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや馴染みのあるものの持ち込みを依頼して対応している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などの手すり以外に、各居室の床に緩衝材を用いて転倒時の衝撃を緩和できるようにしている。室内も本人の希望を配慮しつつ安全に使用できるよう配置を調整している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (すみれ)		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500629-006ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの強みは『医療との連携』です。24時間医療からのサポートが得られる安全安心なグループホームです。日々のケアに加え、体調管理以外にも認知症薬の調整等を通し落ち着いて過ごすことができるよう支援しています。

コロナ禍が長期化しており、それに伴い外出や面会が制限される日々が続いています。ご家族の面会の頻度も低下していることから、ご家族から入居者の情報やケアのヒントを得られる機会も少なくなっています。活動は専ら建物内にとどまっていますが、新型コロナに罹患した入居者はいません。洗濯物たたみや清拭たたみなどの家事的な作業、体操等を継続的に実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「情報のパス、観察のラン、連携のスクラム 無事故のトライ」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入しているが、町内掃除の参加は出来ていない。エリアマネージャーが町内清掃に参加している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で直接会議での話し合いが出来ていないが、入居者様の状況やヒヤリハット報告、日常生活の様子を文章にて伝えている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場カンファレンスの話し合いや申し送り日誌で情報を共有・理解し実践している。玄関の施錠については離設の恐れのある方が居るため、安全のため、施錠させていただいている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行う。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会が開かれていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で法人内外の研修を受けることが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響で交流する機会がなく、活動出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の好きな事、やりたい事、出来る事を把握し、施設での日々の暮らしで活用出来るように支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと関わる時間を持ち、日常の様子や会話から聞き取り、ご本人様の思いを把握できるように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを実施し、情報共有を行い、面会時や電話で、ご家族様より、意見や要望をいただき計画に反映させている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなどは、個別に毎日記録している。申し送り日誌に記録し、情報共有し、実践している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねる時は法人内の「支援会議」において状況変化に応じ、必要と思われる支援が受けられるように検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過において、定期的なボランティアや法人内の託児所の幼児の受け入れや来訪は出来ていない。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医であり、週1回のドクターの回診がある。ご本人様、ご家族様の希望があれば、他医療機関やかかりつけ医と連携をとっている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携ができる体制が整っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期における対応を、ご家族様に説明している。その時期が来た時には、ご家族様・医師・看護師・介護職員が、話し合いし連携を取り、必要書類を作成し、チームで支援を行っている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して医師への報告や救急車の要請時に、スムーズに行えるように備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っていたが、コロナ禍で、実施出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の性格や認知症の進行状況を考慮しながら対応している。話の内容に応じて、耳元で本人にのみ聞こえるよう話しかけたり、必要に応じて居室で対応するようにしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を提供する際や活動への参加の可否など自己決定できるよう、強制することがないように配慮している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れ・日課はあるが、日中でもベッドで休むことができるようにする等の配慮をしている。自らの意向を言葉にすることが難しい入居者には表情や顔色を観察しながら対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンのスペースや感染症防止等への観点から一緒に準備することが困難だが、本人の滑稽を考慮して食事提供をしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の把握に努めている。特に水分摂取量が少ない傾向の入居者には飲み物以外にゼリーを提供することで水分摂取量の確保を図っている。DrやSTと連携して食事形態の調整をしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、法人嘱託の口腔外科医と連携して口腔内の異常への早期対応や清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。安易に吸収量の多い排泄用品に頼らないようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の能力や意向に応じて入浴形態を検討する等の出来る限りの対応をしている。 ゆず湯など季節感を実感できるよう配慮している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中の活動量が減少しないようにしている。 一部、就寝薬を服薬する入居者がいるものの基本的に良眠できている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な血液検査や日常的な体調確認・状態観察を通して薬調整がされている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特異なことやバックグラウンドを把握して楽しみにつながるよう配慮・支援している。行事の内容によってはユニットを超えての交流もしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が困難な状況のため、中庭やバルコニーに出て外の空気を吸ったり気分転換できるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点から、現在はお預かりの対応をしていない。外出等で必要な場合は、事前にご家族へ連絡して必要分預かっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	LEDを導入したことにより、居室の調光がしやすくなっている。 共用スペースでは花や壁画を飾る等して殺風景にならないようにしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の相性を考慮して席を設定している。 一人一人の席は設定しているが、席以外の場所でも過ごせるよう対応している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや馴染みのあるものの持ち込みを依頼して対応している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などの手すり以外に、各居室の床に緩衝材を用いて転倒時の衝撃を緩和できるようにしている。室内も本人の希望を配慮しつつ安全に使用できるよう配置を調整している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり（れんげ）		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500629-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和5年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々にあった外出支援や体調管理に力を入れています。ですが、昨年に引き続きコロナの影響もあり、思うように外出支援が出来ていないのが現状です。少しずつ喫茶店や買い物、花見等の外出が出来ているので、状態を見ながら支援を行っていきたいと思います。体調管理の部分では、毎朝血圧測定等のバイタルチェックと夕方には体温測定を行い、体調管理に努めています。少しでも異常があれば医師や看護師と連携し対応しています。施設内での行事を行い、楽しみを持って過ごして頂けるようにしています。また、洗濯たたみ、お盆拭き、清拭たたみ等生活リハビリを実施したり、転倒予防、下肢筋力低下予防等の為、毎日体操に力を入れています。歌体操やタオル体操、嚙下体操等毎日バリエーションをつけ飽きないように様々な体操を取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「情報のパス、観察のラン、連携のスクラム 無事故のトライ」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入しているが、町内掃除の参加は出来ていない。エリアマネージャーが町内清掃に参加している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で直接会議での話し合いが出来ていないが、入居者様の状況やヒヤリハット報告、日常生活の様子を文章にて伝えている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場カンファレンスの話し合いや申し送り日誌で情報を共有・理解し実践している。玄関の施錠については離設の恐れのある方が居るため、安全のため、施錠させていただいている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行う。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会が開かれていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で法人内外の研修を受けることが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響で交流する機会がなく、活動出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の好きな事、やりたい事、出来る事を把握し、施設での日々の暮らしで活用出来るように支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと関わる時間を持ち、日常の様子や会話から聞き取り、ご本人様の思いを把握できるように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを実施し、情報共有を行い、面会時や電話で、ご家族様より、意見や要望をいただき計画に反映させている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなどは、個別に毎日記録している。申し送り日誌に記録し、情報共有し、実践している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねる時は法人内の「支援会議」において状況変化に応じ、必要と思われる支援が受けられるように検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過において、定期的なボランティアや法人内の託児所の幼児の受け入れや来訪は出来ていない。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医であり、週1回のドクターの回診がある。ご本人様、ご家族様の希望があれば、他医療機関やかかりつけ医と連携をとっている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携ができる体制が整っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期における対応を、ご家族様に説明している。その時期が来た時には、ご家族様・医師・看護師・介護職員が、話し合いし連携をとり、必要書類を作成し、チームで支援を行っている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して医師への報告や救急車の要請時に、スムーズに行えるように備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っていたが、コロナ禍で、実施出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の性格や認知症の進行状況を考慮しながら対応している。話の内容に応じて、耳元で本人にのみ聞こえるよう話しかけたり、必要に応じて居室で対応するようにしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を提供する際や活動への参加の可否など自己決定できるよう、強制することがないように配慮している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れ・日課はあるが、日中でもベッドで休むことができるようにする等の配慮をしている。自らの意向を言葉にすることが難しい入居者には表情や顔色を観察しながら対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンのスペースや感染症防止等への観点から一緒に準備することが困難だが、本人の滑稽を考慮して食事提供をしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の把握に努めている。特に水分摂取量が少ない傾向の入居者には飲み物以外にゼリーを提供することで水分摂取量の確保を図っている。DrやSTと連携して食事形態の調整をしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、法人嘱託の口腔外科医と連携して口腔内の異常への早期対応や清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。安易に吸収量の多い排泄用品に頼らないようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の能力や意向に応じて入浴形態を検討する等の出来る限りの対応をしている。 ゆず湯など季節感を実感できるよう配慮している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中の活動量が減少しないようにしている。 一部、就寝薬を服薬する入居者がいるものの基本的に良眠できている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な血液検査や日常的な体調確認・状態観察を通して薬調整がされている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特異なことやバックグラウンドを把握して楽しみにつながるよう配慮・支援している。行事の内容によってはユニットを超えての交流もしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が困難な状況のため、中庭やバルコニーに出て外の空気を吸ったり気分転換できるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点から、現在はお預かりの対応をしていない。外出等で必要な場合は、事前にご家族へ連絡して必要分預かっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	LEDを導入したことにより、居室の調光がしやすくなっている。 共用スペースでは花や壁画を飾る等して殺風景にならないようにしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の相性を考慮して席を設定している。 一人一人の席は設定しているが、席以外の場所でも過ごせるよう対応している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや馴染みのあるものの持ち込みを依頼して対応している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などの手すり以外に、各居室の床に緩衝材を用いて転倒時の衝撃を緩和できるようにしている。室内も本人の希望を配慮しつつ安全に使用できるよう配置を調整している。		